

講義名	問題解決ツール		
科目区分	学部専門科目		
担当教員	持田 信治		
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 3時限	授業形態	
	2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 福祉マネジメントコース / 2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービス心理コース / 2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 スポーツ健康マネジメント / 2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービスマーケティング / 2014年度 サービス産業学部		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要
<p>本講義は企業活動における課題解決と問題分析手法の理解を深めることを主題とする。企業や組織の運営では様々な問題に直面する、そして問題解決のための効果的かつ具体的な解決方法が求められる。そして問題解決では問題を数値的又は可視化して分析して問題の本質を特定することが求められる。そこで、本講義では問題を分析して解決するための基本的なツールの説明を行い、問題を数値的又は可視化して問題のポイントを特定する力を養い、更に組織の部員と問題を共有するための問題分析、把握能力の習得を目指す。また、本講義では具体的な問題解決事例による演習を通じて問題解決法の活用法も学ぶ。</p>

到達目標
<p>以下を本講義の到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 問題解決とは何か、また問題解決手順を説明できる。 (2) 問題解決に必要な基本的な手法を利用して、問題の本質の特定ができる。 (3) 企業や組織に於ける問題の種類や性質の特定ができ、具体的な解決方法を実行できる。

提出課題
<p>講義の終わりに当該講義に関する小テストを行うことがある。また、講師内容に関するレポートの提出を要求することがある。</p>

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック
<p>課題に対する評価や質問に対しては、必要に応じて講義内で説明を行う。</p>

評価の基準
<ol style="list-style-type: none"> (1) 出席はRESPON又は復習テストや課題の提出で判断する。 (2) 授業参加度50点、復習テスト又は課題50点で評価する。 <p>また、課題やコメントについて自主学習が認められる場合には特に評価する。</p>

履修にあたっての注意・助言他
<p>ノート、筆記用具、電卓を準備しておくこと。 ポータルに資料がUPされている時は事前に確認しておくこと 講義への積極的な参加を希望する。 講義テーマについての自主学習を期待する。 特に復習については問題意識を持った幅広い自主学習を期待する。</p>

教科書
.使用しない。.

プリント資料及び参考文献
<p>必要に応じて、教材をポータルにUPする。 参考文献は以下の通り。 Excelでいつでも使えるQC七つ道具と新QC七つ道具、今里健一郎・高木美作、日本規格協会2900+税金 これだけ統計解析 今里 健一郎 秀和システム 1500円+税金</p>

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 第1回 問題とは 第2回 組織に於ける問題 第3回 問題解決方法 第4回 データ分析の実際 第5回 チェックシート 第6回 データのばらつき 第7回 統計の基本 第8回 正規分布 第9回 データの相関 第10回 線形モデルと回帰分析 第11回 言語データの分析その1 第12回 言語データの分析その2 第13回 問題の要因分析 第14回 線形計画法 第15回 まとめと演習

授業形態（アクティブ・ラーニング）
<p>ア：PBL（課題解決型学習）</p> <p>イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>ウ：ディスカッション、ディベート</p> <p>エ：グループワーク</p> <p>オ：プレゼンテーション</p> <p>カ：実習、フィールドワーク</p>

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>シラバスに従った予習と配布された講義内容に基づいた復習を期待する。当該講義及び前回の講義内容について、小テストを行うこともあるので、授業後に復習を行うこと。また小テストの内容は講義では説明をしていない関連項目に及ぶこともあるので講義テーマについての自主学習を期待する。特に復習については問題意識を持った幅広い自主学習を期待する。</p>

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用
<p>「実務経験あり」 過去のプロジェクトマネージャとしての実務経験に基づき、課題解決に向けたポイントを解説する。</p>

備考
<p>各手法の特徴を理解して、問題解決の各プロセスで手法の活用できるようになること。 QC検定4級や3級を受検する者は本講義の履修が望ましい。</p>